

スポーツの聖地づくり

ラグビーワールドカップ2019™本番迫る！

# 大会の成功とレガシーの創出

「スポーツの聖地づくり」を合言葉に、静岡県はスポーツの普及やスポーツを通じた交流の拡大を目指し、アスリートの育成やスポーツに親しむ環境づくりに取り組んでいる。

今回は今年9月に始まるラグビーワールドカップに向けた機運醸成とそのレガシーへの取り組みを紹介する。

## 全県レベルの期待感を創出

4年に一度の世界的なスポーツイベント、ラグビーワールドカップまであとわずか。本県は9月28日からの小笠山総合運動公園エコパスタジアムでの開催を控え、準備が本格化している。具体的には交通輸送や警備体制の確立、ボランティアの研修、大会をイメージした旗やバナーによる市街地や会場周辺の装飾等だ。試合会場から離れた場所でもラグビーワールドカップを象徴するファンゾーンの準備も進んでいる。

ファンゾーンは静岡市と浜松市の2カ所に設けられ、大型スクリーンによる試合映像の放映（パブリックビューイング）、地元や出場国の飲食物の提供、ラグビー体験イベント等が行われる予定だ。そこでは、国内外のラグビーファンと県民との交流拡大の効果も期待し、地域の特性を生かした企画による静岡の魅力発信に努める。

大会前の機運醸成も進んでいる。昨年6月には、試合会場の最寄駅のJR愛野駅から小笠山総合運動公園エコパスタジアムまで、ラグビーボールをパスでつな



大会開催前イベントの「2019人の地元代表！ラグビーパスリレー」でボールを受け取る静岡県知事。大会成功への願いが伝わっていく。



TM © Rugby World Cup Limited 2015

われた。ラグビーワールドカップ2019開催都市特別サポーター（静岡）である百田夏菜子さんも参加し、大いに盛り上がった。今後も100日前イベント等を通じて、期待感を全県に広げ大会成功へ導いていく。

## 将来を明るく照らすレガシー

大会の準備が最終段階を迎える中、本県は大会後のレガシーに関するプランを「ラグビーワールドカップ2019未来計画」(ラグビーワールドカップ2019組織委員会)に基づき策定した。これは大会を契機に、ふじのくにの魅力を世界に発信することや、大会後もラグビーによる国内外との交流を拡大し、ラグビーを通じた人間教育や地域活性化を進めようとするもの。

プランでは開催都市における大会ボランティアの育成、ラグビー文化の醸成、国際交流の促進等を掲げている。県は大会後も国際試合の誘致・開催が続くよう支援することなどで、ラグビーの輪を広げていく構えだが、子どもたちに対するタグラグビーの普及や、ラグビーを生



「スクラム先生プロジェクト」では選手から実技、講義を学ぶほか、給食で選手との交流も行われる。

かした授業の実施は取り組みの核となる。「スクラム先生プロジェクト」はそのひとつであり、(公財)日本ラグビーフットボール協会の主催で行われている。現役・OBのトップリーグ選手が県内小学5、6年生にラグビーの魅力や精神を伝える。また今後、子どもたちがラグビーの歴史、文化、ルール等を学べる教本を作成する。教本は県内の全小学5年生と中学1年生に配布し、学校教育で活用することでラグビーへの関心を高めて、ラグビーの普及、競技人口やファンの拡大を目指す。教本では、ラグビー憲章が定める5つの価値「品位、情熱、結束、規律、

尊重」も示す。

ラグビー精神の象徴「One for all, All for one」から学ぶことは多い。個でチームを支え、チームで個を生かす考え方は、子どもの成長過程でひとつの大きな指針となる。和を重んじ、誰もが活躍できる環境をつくり大切にすることは人づくりで富国強徳を目指すふじのくにの理念にも通ずる。ラグビーワールドカップの県内での開催を成功させることは、将来の本県を明るく照らすレガシーを残すことになるだろう。

## ラグビーワールドカップ2019™本県開催の4試合

9/28 [土] 16:15~	日本	v	アイルランド
10/ 4 [金] 18:45~	南アフリカ	v	イタリア
10/ 9 [水] 16:15~	スコットランド	v	ロシア
10/11 [金] 19:15~	オーストラリア	v	ジョージア

## Pick up Athlete

堀江恭佑さん

ラグビー選手  
ヤマハ発動機ジュビロ所属

ラグビーのおかげで  
コミュ力に付き、  
人としても  
成長できました。



堀江恭佑さんは、小学生の頃から相撲、水泳、陸上等のスポーツに取り組み、中学3年生の時、友人の誘いでラグビーを始めた。「ルールも分からないまま試合に出たのですが、それまでの個人競技とは違い、仲間とコミュニケーションをとることが新鮮でした」と堀江さんは当時を振り返る。現在は、日本のトップリーグ「ヤマハ発動機ジュビロ」の主将としてチームをまとめ、試合ではフォワードの要といわれるナンバー8(エイト)

のポジションでリーグでの躍進に貢献している。堀江さんは社業と練習の合間に、県西部で小学生にタックルなどの接触プレーをなくしたタグラグビーを教える機会も持つ。「タグラグビーはルールがシンプルなので子どもたちはすぐに夢中になります。これは大人に対する普及活動のヒントです。細かいルールはさておき、競技場の熱気や選手がぶつかる迫力をシンプルに楽しめば、これまで関心

のなかった人にもラグビーの面白さが伝わるはずだ。堀江さんは、ワールドカップにも熱視線を送る。「エコパスタジアムは、選手と観客が一体になれる全国屈指の競技場なので、エコパでの試合は世界トップレベルの名勝負になると思います。ラグビーの魅力を感じた上で、これ以上のステージはありません。以前は口下手だったという堀江さん。「ラグビーでコミュニケーション能力が培われ、One for all, All for oneの精神で人とし

て成長できたと思っています。だからラグビーが静岡に根付けば、静岡全体の力も高まるはず。今回のワールドカップではそんなレガシーを残したいですね。」

## Profile

1990年東京都生まれ。ラグビーの名門校である東京高校から明治大学へ進み、2013年に日本トップリーグのチーム「ヤマハ発動機ジュビロ」に加入。現在はチームの主将、ポジションはフォワードの要といわれるナンバー8。2013~14トップリーグベスト15新人賞、2015トップリーグベスト15を受賞。日本代表キャップは3。身長183cm、体重110kg。

